

## 絆ウオーク 相馬からスタート



# 歩いて復興を発信

東日本大震災から十年を迎えて東北の復興支援と被災地の現状発信を目的とする「絆ウオーク」は十四日、相馬市からスタートした。県ウォーキング協会会員らでつくる踏破隊が出発し、被災地同士の新たな絆を歩いてつなぐことを誓った。

## 市街地巡る イベントも

出席者らに見送られながら、大旗を手に出発する踏破隊

同市のスポーツアリーナをさうまで出発式を行った。井上成美日本ウォーキング協会専務理事が「復興は道半ばだが人と人の絆を一段と強め、心寄せ合い前

へ進もう」と開会宣言。末宗徹郎福島復興再生総局事務局長、立谷秀清相馬市長、橋清司県企画調整部長があいさつした。踏破隊を代表し県ウォーキング協会の鈴木康郎会長と中山新事務局長が、橋部長と立谷市長から大小の隊旗を受けて出発した。福島民報社から馬場憲明常務が出席した。

式典後にはウォーキングイベントも開かれ、一般の参加者が中村城跡や相馬中村神社など市街地を巡る約五キロのコースを歩いて歴史や自然を体感した。「絆ウオーク」は日本ウォーキング協会などで行う東北復興支援運動体実行委員会の主催。踏破隊は本県、宮城、岩手、青森四県のウォーキング協会会員らがそれぞれ結成。相馬市から宮城、岩手を経て十一月に青森県八戸市にゴールする約五百七十キロを、リレー形式で歩く。十六の自治体で住民交流イベントも企画。イベントに直接参加できない人にもスマートフォンなどのアプリを通じ、復興状況や観光などの情報を発信する。

引き続き十二月から来年三月まで、東京都から福島市の県庁を指す約三百六十キロの第二期も予定している。



# 「絆ウォーク」相馬出発

## 東北4県の現状発信

東北の復興と発展支援を目的とした「絆ウォーク」は14日、相馬市のスポーツアリーナをスタートした。東北4県の16都市で支援活動を展開し、歩きながら東日本大震災から10年の被災地の現状を発信する。



旗を掲げ、出発する「絆ウォーク」の実踏隊

## 八戸まで570キロ 復興支援のリレー



日本ウォーキング協会などで行く東北復興支援運動体実行委の主催、福島民友新聞社などの後援。青森県八戸市までの約570キロを4県ウォーキング協会員らでつくる実踏隊10〜30人でリレー方式で歩く。11月までに八戸市を目指す第1期と、12月〜来年3月に東京都から福島市までの約360キロをつなぐ第2

「絆ウォーク」の出発宣言をする鈴木会長（手前中央）

期を予定している。各会場では運動教室などが行われるほか、オンラインアプリで東北の情報発信を行う。出発式では、県ウォーキング協会の鈴木康郎会長が出発宣言。特別ゲストとして、元プロ野球巨人の鈴木尚広さん（相馬市出身）やラグビーワールドカップ2015日本代表の真壁伸弥さん、吉本興業所属のお笑い芸人レギュラーが参加者にエールを送った。立谷秀清相馬市長や菅野芳美福島民友新聞社常務事業局長ら関係者も出席した。

その後、実踏隊が自治体同士の絆を結ぶ「シンボルフラッグ」を掲げ、相馬市から新地町までの約10キロを歩いた。4月10日には新地町を出発し、宮城県に旗が

引き継がれる。立谷市長は震災や新型コロナウイルス、先月の本県沖地震を例に挙げ「災害が起きるたび全国の自治体の絆は強まっている。このイベントを通して被災地の協力体制がますます強くなる」と期待していると語った。